

は能藥がはいつてゐるから顔のこまかい腫物が治るよ。○下

〔和漢三才圖會二十五容飾具〕白粉をる略○中

一種草實有白粉用塗婦人面似鉛粉

〔和漢三才圖會九十四濕草〕白粉草以於之乃木

按白粉草春生苗冬枯高二三尺叢生○中紅花中出紅藥細如絲蔓本結子灰黑色皺如胡椒而中滿

白粉採之塗婦人面光澤優於鉛粉俗呼曰白粉草

〔樂屋雜談上〕是もむかしはさるもの日々の催促

こ、も流れの道頓堀樋のうへを南へ高津新地といへるは江南の芝居もの、たいがいのあつま  
り所といへど、中より下のやくしやお、くは此ほとりに住居なせり○中自分が旅あるきを持  
てゆく取おきの鏡だい、柳ごりにおしろいと、き、あらい粉の筒は、つちりのおしろい、に、兎の足の  
まゆはき、日まよくのかけはじめといふべき六寸のかゝみをとろへて渡しておけば○下

白粉用法

〔都風俗化粧傳中化粧〕白粉をする傳

化粧をするには、まづ白粉をとく事を第一とすべし、いかほど手際よく化粧するとも、白粉のと  
きやう荒ければ、化粧して後白粉浮て粉のふきたるが如く、あらかてのびがたく、光澤を失ひて  
見苦きものなれば、白粉をとくことを專一とすべし、おしろいするときやう、此部の上にある、  
扱化粧をするには、ときたる白粉を額に少しつけて、是を指先にてまづ、かにははしく、てむら  
なくのばし、夫より又白粉を手にとりて、兩眉の上のかたより眉の間につけ、又まづかにむらな  
く延し、夫よりだん／＼顔につけてはのばし／＼、兩の頬、鼻の上より鼻の兩わき、口の上下左右  
耳の後、耳首筋、咽と一所づ、白粉を付、指先にてそろ／＼と廻してよく延すべし、  
耳へ白粉をする傳